

静岡がん会議

2009

静岡県のがん医療の現状～地域医療を守るために～

平成22年3月27日(土)

静岡県立静岡がんセンター研究所

主催：静岡県・静岡がんセンター

開催趣旨

今年度の「静岡がん会議2009」は、「静岡県のがん医療の現状～地域医療を守るために～」をテーマに、がん対策推進計画策定後、2年が経過した静岡県のがん対策の現状を概観する。一方、地域医療に暗い影を落す、医師・看護師不足に端を発した地域基幹病院の診療機能、経営状況の悪化は、医療関係者、住民、行政の連携による解決に向けての努力が必要な喫緊の課題である。本会議では、地域医療の崩壊を防ぐため、実態の把握につとめ、率直な意見交換を行い、将来の解決に向けての第一歩としたい。



静岡がんセンター総長 山口 建

プログラム

静岡がん会議2009 | 平成22年3月27日(土)
静岡がんセンター研究所 しおさいホール

テーマ:「静岡県のがん医療の現状～地域医療を守るために～」

10:00	開会挨拶 静岡県副知事 大村 慎一
10:10	実行委員長挨拶 静岡県立静岡がんセンター総長 山口 建
10:20	基調講演1 「静岡県におけるがん対策～これまでの取組状況と今後の課題等～」 竹内 浩視(静岡県厚生部医療健康局疾病対策室長)
11:00	基調講演2 「がん診療連携拠点病院の現状」 山口 建(静岡県立静岡がんセンター総長)
11:40	報告 「がん患者・医療関係者に役立つ情報ツール」 堀内 智子(静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター長)
12:00	昼食 (50分)
12:50	基調講演3 「地域医療を守る…地方の時代の医療改革」 西田 在賢(静岡県立大学大学院経営情報学研究科教授) (大学院附属地域経営研究センター長 学長補佐(社会人教育担当))
13:30	パネルディスカッション「静岡県の地域医療を考える」 (210分) パネラー: 野見山 伸(独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター院長) 木村 泰三(富士宮市立病院院長) 青木 一雄(沼津医師会会長) 雜賀 俊夫(静岡県東部保健所長) 西原 茂樹(牧之原市長) 小田 和弘(共立済病院長)〈ビデオ出演〉 鶴田 憲一(厚生労働省関東信越厚生局長) コーディネーター: 山口 建(静岡県立静岡がんセンター総長) ・パネラーによる報告 140分(20分×7人) ・休憩 10分 ・討論 60分
17:00	閉会挨拶 静岡県立静岡がんセンター総長 山口 建

講師プロフィール／講演要旨

基調講演

1

静岡県におけるがん対策～これまでの取組状況と今後の課題等～

竹内 浩視（静岡県厚生部医療健康局疾病対策室長）



経歴・研究活動等

1987	浜松医科大学医学部医学科卒
1993	浜松医科大学大学院医学研究科修了（医学博士）
1987～2001	静岡県内の医療機関で小児科診療に従事
2001～2003	厚生労働省本省勤務（老人保健課、厚生科学課）
2003～	静岡県職員 御殿場健康福祉センター所長、 健康福祉部健康福祉室技監等を経て、 2007（平成19）年4月より現職

静岡県は、静岡県がん対策推進協議会における協議やパブリックコメント等を経て、平成20年3月に、全ての県民が、予防から治療まで主体的に取り組むことを基本理念とした「静岡県がん対策推進計画」を策定しました。

本計画は、関係者の役割を明確にすることにより、平成20年度から平成24年度末までの5年間で、各分野の数値目標を達成するとともに、10年間で、最終目標であるがんの年齢調整死亡率の20%減少を目指しています。

本日は、これまでの取組状況を報告するとともに、今後の課題等について述べます。

基調講演

2

がん診療連携拠点病院の現状

山口 建（静岡県立静岡がんセンター総長）



経歴・研究活動等

1974	慶應義塾大学医学部卒業
1976	国立がんセンター研究所内分泌部研究員
1986	国立がんセンター研究所内分泌部部長
1987	国立がんセンター研究所細胞増殖因子研究部部長
1999	国立がんセンター研究所副所長
2002～	静岡県立静岡がんセンター総長

がん診療連携拠点病院は、2001年度に創設された厚生労働省の制度で、現在、全国で375の医療機関が指定を受けている。静岡県では11の拠点病院とともに、別途、県によって指定された7個所の推進病院と3個所の相談支援センターが、地域のがん医療実践のため活動している。制度開始後、約10年が経過した拠点病院について、全国的な状況や現在、直面している様々な課題を紹介したい。

基調講演

3

地域医療を守る…地方の時代の医療改革

西田 在賢（静岡県立大学大学院経営情報学研究科教授
大学院附属地域経営研究センター長 学長補佐（社会人教育担当））



経歴・研究活動等

静岡県立大学大学院 教授、同地域経営研究センター長。 医学博士、情報工学修士。 専門は医療・福祉経営学、経営情報システム論。
マッキンゼー・アンド・カンパニー勤務、電子カルテ開発のベンチャー起業のうち、日仏合弁会社の経営再建の責任者を経験。自らの経験則もふまえた独自の医療経営論を展開する。医療経済研究機構主幹、東北大学医学部助教授、ハーバード大学公衆衛生大学院リサーチフェロー、川崎医療福祉大学教授、武藏野大学教授を経て2006年4月より現職。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療経済担当客員教授(2001年4月より2009年3月まで)

昨今、医療崩壊が話題となっている。地域の医療を守る公的病院で医師を確保できること、また、そのために病院の経営が悪化することが原因だという。しかし医師不足一つとっても、その背景は複雑だ。要するに、医学が発達し、医療が進化する中で複雑となった医療提供と巨額になった医療費資金のバランスを管理することは容易ではなく、医師不足に限らず、何かのきっかけで形を変えて医療崩壊が起きても不思議ではない。その対策の一つとして、国が中央で一括して進めていた医療制度改革が、地方に委譲されようとしている流れに注目しておく必要があろう。

パネルディスカッション

「静岡県の地域医療を考える」

パネラー

- 野見山 延（独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター院長）
木村 泰三（富士宮市立病院長）
青木 一雄（沼津医師会会長）
雜賀 俊夫（静岡県東部保健所長）
西原 茂樹（牧之原市長）
小田 和弘（共立湊病院長）〈ビデオ出演〉
鶴田 憲一（厚生労働省関東信越厚生局長）

コーディネーター

- 山口 建（静岡県立静岡がんセンター総長）

- ・パネラーによる報告 140分(20分×7人)
- ・休憩 10分
- ・討論 60分

**富国有徳の理想郷－しづおか
ふじのくに**